

平成 29 年度第 1 回仙台市泉区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事概要

日 時 平成 29 年 6 月 11 日 (日) 9:00~15:00

場 所 泉区役所本庁舎 5 階 511 会議室

出席者 (評価委員)

岩動志乃夫 委員長, 佐藤重子 副委員長, 中井裕子 委員, 眞壁さおり 委員
(関係団体)

仙台市泉区文化協会, 「将監沼の自然」とふれあいを育む会, いずみ朝市運営
委員会, 泉区まちづくり推進協議会, 泉区民ふるさとまつり協賛会

(担当課)

まちづくり推進課, 家庭健康課

事務局 まちづくり推進課

次 第 1 開会

2 委員紹介

3 議事

(1) 平成 28 年度企画事業 事後評価

(2) 平成 29 年度まちづくり活動助成事業 事業計画説明会・選考評価

4 その他

5 閉会

配布資料 「仙台市泉区区民協働まちづくり事業(平成 28 年度分)実績報告書」等

【平成 28 年度企画事業 実績報告についての質疑応答, 意見等】

1. ニュースポーツフェスティバル

- ・単独で開催するフェスティバルを立ち上げてみてはどうか。各世代向けのスポーツのほか, 子供向けのスポーツをするための体をつくる食事や高齢者向けの元気に長生きするための食事を取り入れ, 世代間交流も考えてみてはどうか。
→体育の日に泉総合運動場で行っている区民スポ・レクフェスティバル in 泉は単独に近い開催内容だが, 世代ごとに分かれがち。時間をかけて世代間交流ができるように進めていきたい。
大学などの協力も得て, 健康促進を取り入れた新しいニュースポーツフェスティバルとなるよう期待します。
- ・地域に広げ, ニュースポーツにふれ易い環境づくりの対策はどのように行っているか。
→フェスティバル自体は区全体を対象としているので, これをきっかけに各学区で広めていただきたいが, 高額な道具がネックとなっている。
- ・道具の貸し出しは行っているのか。
→泉体育館で行っている。また, 構成団体所有の道具も貸し出し用に保管いただいている。
- ・交流のきっかけづくりにするため, 多くのスポーツを提供して欲しい。

2. 泉区民文化祭

- ・大学の協力が多くようだが, どのような内容か。

→学生には、出演や出展のほか、司会やパネルの展示、撤去など文化祭当日のみならず協力をいただいている。

- ・文化祭までの準備で特に苦勞されたことはありますか。
→準備は6月から始めており、学生の夏休みなども利用している。最初は2.3年生主体だが、1年生も次第に大きく加わるようになり、今のところ意見の衝突はない。これからも、人材育成に寄与しながら継続をお願いします。
- ・入場者数はどのような傾向か。
→以前は3日間で開催していたが、最近では中身を濃く2日間で開催していることもあり、1日当たりの入場者数は増えている。
- ・文化を通して、世代を超えた人々の交流や伝統継承にも寄与しているようだ。
- ・若手の協力による参加者増は、まちづくりの要となる。

3. 将監沼ふれあい事業

- ・担い手不足について、他団体の成功例を参考にするなど、対策は講じていますか。
→間伐は、当会員が専門の団体へ加入し、技術の習得を随時行っている。また、子どもに関心を持たせるためにおやじの会に声掛けしているほか、間伐材が必要な団体にも足を運んでもらうための広報を行っている。
- ・最近の将監沼は見違えるように整備が進み、人が集まっていると感じた。
→木々の世代交代についても生態系に影響を及ぼさないように区画を分けて、10か年の計画を進めている。
- ・地域への愛着に基づいて、沼を通したコミュニティ形成の取り組みは、とても目的が明確で一般の方にも伝わりやすい。
- ・担い手育成の努力を継続していただきたいです。

4. いずみ朝市

- ・出店者の内訳は、現在どの程度か。
→区内の生産者が全体の6割程度の13件。商店関係は6件。遠くは南三陸などからも出店いただいている。
- ・売手買手ともに高齢者が多いとのことだが、開催時間の変更などは可能か。
→35年間の歴史や品物の新鮮さ、出店者の昼の予定などを勘案すると難しい。
- ・販売以外に交流を図る催し物は考えていますか。
→以前は大きな催し物もあったが、現在は供給できる量や予算を考えながら、それに合った催し物を行っている。
- ・全く違う視点での朝市を考えても良いが、消費者・生産者ともに高齢者が増えている現状では難しそうだ。

5. いずみのふるさと学事業

- ・み一つけたは、泉区を探検して記録しているものと存じており、その時代の泉区を知ることができる大事なものと考えています。編集が終わりましても、み一つけたと続み一つけたを保管し、泉区の変遷が分かるように3巻セットで読めるとより良いと思います。

- ・ふるさとサポーター会の存在が大きいと思うが、サポーター研修会は現在も開催しているのか。
→サポーター同士での研修は行っているが、サポーターを育成するための研修会などは今後の課題としている。
- ・サポーターに学生を参加させることは考えているか。
→知識や意欲のある学生はいるが、就職先を含め地域に定着している学生となると該当者を探しきれない。
- ・探訪会実施のほかに、サポーター養成のための取り組みも事業としてみてはどうか。

6. 泉中央美化推進事業

- ・いつも綺麗に咲いている堤防の花は、土壌が良くないため水遣りなどの管理が大変だと思うが、どのように管理しているのか。
→ガールスカウトの団員の親が毎朝ホースで水遣りをしている。緑化活動や植栽活動の協力は得られているので、その後の管理について更なる団体の協力が必要。
- ・一斉清掃には何団体が参加されているのか。
→100を超える団体に案内を出している。
- ・美化意識の高さに驚きました。

7. 区民意識普及啓発事業

- ・以前の委員会で提案した少年の主張泉区大会での普及啓発を行っていただきありがとうございます。大会のパンフレットに絵と文字で区民憲章を載せているため、すぐに行動できる具体案が目に見えて素晴らしいです。
- ・区民意識の普及は形になりづらいと思う。他区との交流などで形になったものがあれば成果を計ることができるのではないかと。
→今は、泉区の良さを泉区民に伝えることを考えているが、他区を知ることで泉区の良さを知ることでもできると思うので、他区との交流の機会を活かせるような企画も考えていきたい。
- ・成果指標の設定方法に工夫が必要です。

8. 七北田川クリーン運動事業

- ・いかだ下りの保険やライフジャケットなど安全面はどのようにしているか。
→ヘルメットは持参いただいておりますが、ライフジャケットは準備しており、看護師も1名派遣していただき、保険もかけています。
- ・七北田川流域の小学生の交流など、環境美化意識の向上を形にできるような企画が必要なのかと思います。
- ・放流したアユは戻ってきているのか。
→アユは海で産卵し、その卵が孵って川を遡上するが、魚道の整備がされていない。河川管理者の宮城県仙台土木事務所へは意見を伝えている。
- ・一斉清掃時に放流したアユについて、自然観察会で生育も学べたら良いのではないかと
思う。
- ・成果の見せ方に工夫が必要です。

9. 泉ヶ岳悠・遊フェスティバル事業

- ・泉ヶ岳で活動している団体やボランティアがフェスティバルに参加協力することで、日常的な取り組みとどの様な繋がりができているのか。
→泉ヶ岳の魅力発信のために開催しているフェスティバルで、意見やブースの出展などの協力をいただき、来訪者が増えているとは聞いているが、それを計る指標はない。
- ・泉ヶ岳に行くと平日でも高齢者や小学校の利用は多い。泉ヶ岳が自分達の愛すべき山として定着してきていると感じられる。
- ・ステージは満ち足りていると思うので、自然にふれあえる内容を増やすと更に良くなると思う。

10. 泉区民ふるさとまつり

- ・運営スタッフの課題や今後の展望をどう考えているか。
→スタッフが少ないなか、主に泉区で活動されている団体のステージ発表や市民展示を含め、みんなで作るお祭りとして今後も取り組んでいきたい。
- ・どの範囲の企業に協賛をお願いしているのか。
→新規協賛企業の開拓など、泉区を中心に幅広く集めている。
- ・多くのお祭りでも配布され単年度しか使えないうちわに代わる広報手段はないか。
→協賛会の部会でうちわに代わる取り組みを考えているが、まだ形にはなっていない。
- ・ふるさとまつりは他区でも認知度が高いので、今後は泉区民の主体的な関わりを深める具体的な取り組みが必要と感じた。

11. 泉ヶ岳利活用推進事業

- ・泉ヶ岳悠・遊フェスティバル事業と泉ヶ岳利活用推進事業は、団体は違えど一本化することで効率的な活動ができると思う。
→悠・遊フェスティバルは泉ヶ岳を知ってもらうための起爆剤的な単発の事業で、利活用推進事業は年間を通して活動しているが、利活用推進事業の団体は悠・遊フェスティバルの実行委員にもなっている。それぞれの思いを持って泉ヶ岳で活動している数ある団体について、いずれ統合などの課題が挙がるであろうことの認識はしている。
- ・自然環境維持保全には、ご苦労が多いと思います。

12. 青少年健全育成事業

- ・子どもが時代に沿った新しい標語を作られているので、ポスターだけではなく看板などの媒体を用いて多くの人へ新しい言葉を伝えて欲しい。
→協賛等含め考えていきたい。
- ・健全育成事業実行委員の関わりのも明確化が必要と感じました。

13. 地域子育て交流会

- ・ワンオペ育児が話題となっていますが、父親の関わりはいかがですか。

- おやこフェスティバルの父親の参加は少なく，母親や祖母がメインとなっている。公的な機関と協働しているため，土日の活動が制限されていることを課題としている。
- ワーキングマザーや父子家庭の方などが参加できる場が欲しいとの意見がある。
- ・多様な子育て世帯への対応や取り組みを広げていただきたいです。

14. 泉中央地区活性化推進事業

- ・泉区民広場で行っている泉高校と泉松陵高校と泉館山高校の泉三校定期戦パレードなど，泉区のこれからを担う若い方の頑張っている姿を披露することで，注目度が変わり新たな方向に開けるのではないかと感じた。
- いただいたご意見を，新しくできた泉中央駅前広場の活用方法の参考にしたい。
- ・集客ではなく，まちに人が自然と集まってくるよう考えることが大切だと感じます。
- ・イベントと日常的な取り組みの融合を早めに進めていただきたいと思います。

15. 大学連携地域づくり事業

- ・ゼミや研究室の定着化により新しい視点がなくなってきたところに，宮城学院女子大学の参入は良いキッカケになったと思う。
- ・この事業は，学生の研究のフィールドと，オンザジョブトレーニングとしての関わり，統計資料としてのフィールドワークを提供できれば良いのではないかと感じている。
- 学生としては，自分のやっていることを地域に知ってもらえることが動機づけに繋がるので，広報も含めて取り組んでいきたい。
- ・学生本来の学業もあるので，今まで通り上手に調和して進めてください。
- ・学生による地域への関わり事例の発表の場が用意されると良い。

【平成 29 年度まちづくり活動助成事業 評価委員会の付帯意見等】

1. いじめを防ぐ「共感脳」の育成 弁当の日が生み出す暮らしの時間の講演会
 - ・地域が抱えている課題を汲み取り，そのニーズを満たすための活動となる様に，団体としてのねらいや事業の目的を明確にするご検討が必要と感じました。
 - ・講演会の開催とする事業では，事業評価基準の継続性・発展性に合致していないと考えます。
 - ・団体の趣旨にかなった活動の中で，その活動全体をより一層飛躍させるために行う旨の講演会を，事業の手段の一つとして取り入れてみてはいかがでしょうか。
2. 地域住民が相互に支え合い助け合う活動の実現
 - ・地域課題に対して努力を積み上げ，効果のある解決方法に至ったものと感じました。
 - ・今後のモデル事業に成長してほしい希望もあり，立ち上げの経費より継続するための経費に重点を置く工夫が必要ではないかと考えます。
 - ・夏用と冬用のベスト及びキャップについては，維持や保管が容易でオールシーズン着用可能な大きめのベストで対応可能と考えます。